



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.7 2006.4



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学リサーチセンターニューズレター

目次

| | | ページ |
|----------|--|--------|
| ● イベント報告 | IMD & Tokyo Tech Meeting | 1 |
| ● 海外活動報告 | フィンランド産学との連携 イノベーション・ビジネス・社会国際シンポジウム マドリッド自治大学訪問 | 2 3 |
| ● 学生の目 | 科学技術はインスティテューションに従うか? | 3 |
| ● 最近の動き | SIMOT リサーチセンター運営委員会 海外出張・研究者招聘・産学提携 | 4 |
| ● イベント予定 | | 4 |
| ● 連絡先 | | 4 |

イベント報告

IMD & Tokyo Institute of Technology Meeting (2006年3月29日(水) 東京工業大学)

3月29日に東工大にて、“Competitiveness through Co-evolution between Innovation and Institutional Systems”を議題としたテクニカルミーティングを開催いたしました。

本会議には、「世界競争力ランキング」で有名なスイスのビジネススクール IMD (国際経営開発研究所) にて Technology&Innovation Management 教授を務めるジョルジュ・アウー氏の他、科学技術振興機構 (JST)、米国ドレクセル大学等からもゲスト講演者が参加。SIMOT の基本テーマである「イノベーションとインスティテューションの共進化」に依るところが大きい世界各国の競争力について議論しました。



IMD-東工大会議は、ワークショップとフォーラムの2部構成で行われました。

ワークショップ (14:25-17:00)



第一部として、本分野における産官学の先端研究者参加によるワークショップを開催しました。本会議では、SIMOT 研究センター長 渡辺千仞教授、ジョルジュ・アウーIMD 教授、科学技術振興機構 (JST) 丹羽邦彦シニアフェロー、米国ドレクセル大学 黒川晋助教授にご講演いただきました。

「ヨーロッパにおけるインスティテューションとイノベーションの共進」(アウー教授)、「旺盛な学習努力を基本とする日本のインスティテューションとイノベーションの共進化」(渡辺教授)、「ナショナルイノベーション・エコシステムの提言」(丹羽シニアフェロー)、「インスティテューショナル MOT の日米比較」(黒川助教授)と、それぞれの視点からの「イノベーションとインスティテューションの共進化」を中心テーマとした活発な議論が行われました。



イブニングフォーラム (14:25-17:00)



第二部は、「Competitiveness through Technological Distributed Innovation」とのテーマで、ジョルジュ・アウーIMD 教授に講演していただきました。

本講演では、テクノロジー企業に対し、技術的イノベーションから効果的に価値を創造するためのイノベーションの新しいあり方として「分散型イノベーション (Distributed Innovation)」を提言しました。

同教授は、技術が益々複雑化する現在において、大企業の中央研究所型では必要な研究資源を獲得するのがどんどん難しくなっており、結果的に事業化できないことを指摘し、企業は他の企業・組織を糾合しなければ、イノベーションを惹起し得ないと提起しました。これが、分散型イノベーションです。

また、国家の技術政策は、分散型イノベーションを懲罰し、イノベーション・システムの失敗を是正するものでなければならないと主張し、SIMOT の「イノベーションとインスティテューションの共進化」という観点が分散型イノベーションに対しても大変有効であることを概説されました。



海外活動報告

フィンランド産学との連携

SIMOT 研究センター副センター長の圓川隆夫教授が中心となって開発・運用している SCM ロジスティクススコアカード (LSC) とそれに基づく自動診断システムについて、フィンランド国内で産学連携のもとで2006年3月よりWebによる調査・運用が開始されました。

そのために Heikki Juhani Kekalainen 氏 (e-Business Logistics) 、Jouni Kauremaa 氏 (ヘルシンキ工科大学) が来日。2006年2月23日、24日の両日、打ち合わせとこれからの運用、研究について合意を取り交わしました。同様の LSC による調査は、中国、タイでも進行中です。



<参考ホームページ <http://www.ie.me.titech.ac.jp/lab/enkawa/index-j.html>>

イノベーション・ビジネス・社会国際シンポジウム (2006年3月16日~21日 フィンランド タンペレ)

フィンランドの IT をてこにした躍進はめまぐるしいものですが、その持続をねらいにフィンランド技術・イノベーション支援庁及び貿易産業省は、SIMOT に非常に似た「技術・ビジネス・社会の相互作用研究プログラム」を推進しています。その一環として、3月に、ヘルシンキの北のタンペレで International ProACT Conference と銘打った国際コンフェレンスがあり、SIMOT 研究センター長の渡辺千仞教授が参加し、SIMOT の研究の一端を発表しました。コンフェレンスは Institution の大合唱であり、聴衆の大半のフィンランド人の質問は正鵠をつき、また総じて感度が高いのに感心した由です。原因は異にするとは申せ、日本と同様に 90 年代初めに経済危機に遭遇しながら、90 年代半ばにはいち早く IT をてこに高生産性のリーダーに躍進したフィンランドの「インスティテューショナルイノベーション」にあらためて興味がわくところです。

マドリッド自治大学訪問 (2006年3月21日~26日 スペイン マドリッド自治大学)

SIMOT 研究センター員/運営委員 妹尾 大助教授は、2006年3月21日から26日まで、スペインのマドリッド自治大学を訪問し、企業経営研究所 (IADE) 所長の Eduardo Bueno Campos 教授、Maria Paz Salmador 助教授らと対談しました。スペイン各地のサイエンスパークの設立運営に携わっている両教授は、技術経営と地域の共進化を焦点とする SIMOT の活動に深い興味を示し、今後のコラボレーションを熱望しました。IADE 博士課程所属の学生たち十数名を集めた研究交流セッションでは、学生たちの研究紹介もあり、無形資産、知識創造、場といった概念を駆使しての研究が進められている様子が実感できました。

学生の日

東京工業大学大学院社会理工学研究科

科学技術はインスティテューションに従うか? 経営工学専攻博士課程3年 山田 晃央



昨年(2005)末、欧米を中心としたメディアは、進化論対 ID 理論の対立を報じました。進化論はおなじみのダーウィンの進化論。ID 理論とは、正式名称をインテリジェント・デザイン (Intelligent Design) と呼び、宇宙、世界や生命、人間が「高度な知性」によって創造されたとする論説です。「高度な知性」というのが、キリスト教やそれをベースにした創造科学が唱える「創造主なる神」と異なる点です。

『利己的な遺伝子』で有名なドーキンスなど多くの科学者が批判していますが、一般の人々はむしろ逆で、約 40% のアメリカ人が進化論を信じていないという報告もあります。

この事例は、宗教的な問題をひとまず留保すると、科学や技術はたとえ理論的に正しくても、数値的に上回っていても、それが社会一般に受け入れられるかどうかはわからないという示唆を与えてくれるように思います。宗教に関係のない問題でも、ビデオのベータ、最新ゲーム機、歌のうまい歌手などなど多くの優れた製品や人物が市場に受け入れられることなく、消えていきました・・・これらの現象を経済学や経営学では、ロックインだとか、技術軌道だとかいう概念で説明を試みてきましたが、受け入れられる側も含めたインスティテューションも非常に重要な要素だと思われまふ。

SIMOT はこのインスティテューションの解明に重要な貢献をなしえるものだと思っていますが、私たち大学に籍を置く者も、大学にロックインすることなく、社会のインスティテューションに広く受け入れられるように活動しなければならないと強く肝に銘じたいと思います。

■ 最近の動き ■

SIMOT リサーチセンター運営委員会 (2006 年 4 月 11 日)

SIMOT 研究センター運営委員会では、事業推進担当者、COE 専任特任教授の他、東工大内関連部局（理工学研究科、総合理工学研究科、情報理工学研究科、社会理工学研究科、イノベーションマネジメント研究科、精密工学研究所、原子炉工学研究所）の代表の参画をあおぎ、センターの運営に関する基本的な方策等重要事項について、全学的な審議検討を期しています。

第 2 回となる今回は、SIMOT の過去 2 年間の活動および 18 年度計画の報告に即し、研究教育の取り組みを中心に、今後のセンター活動について討論を行いました。



海外出張

矢島 4 月 8 日～4 月 13 日 シンガポール (国際会議 PAKDD 2006)

渡辺 4 月 28 日～5 月 6 日 オーストリア ウィーン (国際応用システム分析研究所)

■ イベント予定 ■

研究・技術計画学会 国際問題分科会 4 月例会

日時 4 月 20 日 (木) 18:00～20:00

場所 東京工業大学 百年記念館 第 1 会議室

テーマ 初等中等科学技術教育の国際的動向とイノベーション
- 「インスティテューショナル技術経営学」への示唆

講師 小倉康氏 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官)

第 4 回 東工大 Inter-COE21 シンポジウム

日時 8 月 11 日 (金)

場所 東京工業大学

内容 高校生、大学生、一般を対象とした、東工大 COE 各拠点の紹介

●● 発行 ●●



東京工業大学 21 世紀 COE プログラム
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
西 9 号館 208B 号室
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250
Email: nakane@me.titech.ac.jp
URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>
編集者: 菊池 隆